



ヨナグニサン

県指定天然記念物
世界最大の蛾として知られ、日本では与那国で初めて採取されたことから和名の由来になった。メスは羽を広げると20~30cmにもなる。石垣島、西表島にも生息し、幼虫はアカギ、モクダチバナなどの葉を好んで食べる。

カラスバト

国指定天然記念物
全長40cmほどの日本最大のハト。県内各地の森林に生息し、ウウーと唸るような鳴き声特徴的。全体的に黒っぽく見えるが、光にあたると緑や紫色の金属色を放つ。



ケナガネズミ

国指定天然記念物
日本最大の野生のネズミ。体長25cmほどになり、背中には短い毛に混じって長い毛がある。森林に生息し、主に樹上で生活する。夜間に活動し木の葉や木の実などを食べる。沖縄島では開発などにより個体数が激減している。



イリオモテヤマネコ

国指定特別天然記念物
1965年に西表島で発見された野生のネコ。西表島だけに生息し、林内を単独で行動し、トカゲや鳥、昆虫などを食べる。ネコ類としては珍しく水を嫌わず、うまく泳ぐ。生息数は100頭ほどといわれ絶滅が心配されている。



カンムリワシ

国指定特別天然記念物
全長55cmほどのワシ・タカ類。日本では八重山諸島だけに生息。頭にある冠のような羽毛がカンムリワシという和名の由来になっている。主に湿地帯や草地で餌となるネズミや小鳥、ヘビ、トカゲ、カニなどを食べる。



ケラマジカ

国指定天然記念物
日本の最も南に生息する野生のシカ。本土のシカより小柄で黒っぽい。17世紀頃に九州から持ち込まれ、環境に適応して小型化したと考えられている。島から島へ泳いで渡るケラマジカが多くの人に目撃されている。



ヤンバルテナゴコガネ

国指定天然記念物
1983年に発見された日本最大のコガネムシの仲間。オスの前足が長く8cmにもなる。沖縄島の固有種でヤンバルのイタジイを中心とした森林にだけ生息する。森林伐採や密猟による個体数の減少が心配されている。



ノグチゲラ

国指定特別天然記念物
世界でヤンバルの森だけに生息するキツツキ。イタジイなどに50cm前後の巣穴を掘る。枯れた木などにいるカミキリムシの幼虫や、地上で土を掘り昆虫などを食べる。個体数は100~200羽と推測され、絶滅が心配されている。



セマルハコガメ

国指定天然記念物
石垣島と西表島に生息している陸生のカメ。外敵に襲われると手足を引っ込め、腹部の甲羅で蓋をすることから「箱亀」とも呼ばれる。ミミズやカタツムリ、草木の実や種を食べ、水中にはほとんど入らない。



ヤンバルクイナ

国指定天然記念物
1981年に新種として認められたクイナの仲間。赤いくちばしと太く丈夫な赤い足、身体の下側の白黒模様が特徴。世界でヤンバルの森だけに生息し、ミミズやカタツムリなどを食べ、夜は樹上で眠る。近年、野ネコや野犬、マングースなどによる捕食や、交通事故による個体数の減少が心配されている。



コラム 天然記念物いろいろ

沖縄には国指定特別天然記念物が5件、国指定天然記念物が46件、県指定天然記念物が52件、市町村指定が122件あり、動物以外にも植物・地質鉱物(特異な自然現象の生じている土地)などが含まれています。

名護のしんぷんがジュマル
国指定天然記念物
推定樹齢280~300年。樹高約19m、幹の周囲は約10m。市街地に位置し、市のシンボリック役割を果たしている。

久米島町奥武島の曇石
国指定天然記念物
600万年前に安山岩のマグマが海底近くの地下で冷え固まってできたものといわれる。平成26年7月に国の天然記念物に指定されたばかり。

慶佐次湾のヒルギ林
国指定天然記念物
慶佐次川河口から上流に向かって本島最大級のヒルギ林が広がる。メヒルギ・オヒルギ・ヤヤマヒルギの3種類を見ることができる。

天然記念物を理解することで 沖縄を知り、自然の尊さに触れる

日本の南端に位置する沖縄には本土とは異なる気候風土のなか、多くの天然記念物が存在しています。動物においては琉球列島が大陸と陸続きだった時代に移動し、海で分断されたことで取り残されたものも多く、世界的に貴重なものも含まれています。イリオモテヤマネコやノグチゲラなどの国指定特別天然記念物をはじめ、ヤンバルクイナやケラマジカなどの国指定天然記念物、ヨナグニサンなどの県指定天然記念物、さらに市町村においても多くの天然記念物を指定し保護しています。

「天然記念物の対象は、国や地域の成り立ちにおいてその存在なしに語ることができないものとして残っています。なぜ天然記念物になったのかを理解し、守っていくことが大切。そして、見つけたら触れずに観察したり、ヤンバルでは車のスピードを落としたりする姿勢も大事ですね」と話してくれたのは県教育庁文化財課の濱川靖さん。

沖縄に暮らす私たちにとって身近でありながら貴重な動物や自然。どう向き合い共存していくのが、これからの大きな課題です。

濱川 靖さん
県文化財課 文化財班 指導主事
高校で教鞭を執っていたという経歴をもつ濱川さん。平成26年から文化財課で天然記念物を担当し、現在は沖縄各地を飛び回り調査の日々。「なぜ貴重なかがわかると、天然記念物は面白くなる。多くの人に興味を持って欲しい」とアピール。